

# あかしびと

102号 2020年12月発行

日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会 〒2360046 横浜市金沢区釜利谷西3-36-20

牧師 森島牧人・森島 恵 電話 045-783-5475

mail:[church.kanazawabunko@gmail.com](mailto:church.kanazawabunko@gmail.com)

[http:// kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp](http://kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp)



「1818年のクリスマスイブ前日、オーベルンドルフにある聖ニコラウス教会のオルガンがネズミにかじられて壊れてしまいました。そこで、教会の助祭ヨゼフ・モールは“Stille Nacht”の詞を書き上げ、村の音楽教師をしていたオルガン奏者のフランツ・グルーバーに、この詞にギターで伴奏できる讃美歌を作曲するよう依頼し、急遽完成させました。そして1818年12月25日、ここ聖ニコラウス教会で初演されたので

す。そんな、きよしこの夜の誕生秘話をもつ聖ニコラウス教会は18世紀初頭に取り壊され、その跡地には、この「きよしこの夜礼拝堂」が建てられています。」（ネット配信転用）

## 「賛美とは」 詩編 150 編

森島 牧人 牧師

「あなたは礼拝の中で、賛美歌を大きな声で歌いますか？」と牧師が問う。信徒は「……!？」と。そうなのです、最近とみに礼拝での讃美歌を歌う声が小さくなってきているように思えません。礼拝での賛美って何なのでしょう。

プロテスタント教会での礼拝改革は、やはりM. ルターに始まります。彼は宗教改革者として多くのことに取り組みましたが、賛美の改革もそのひとつでした。それまでの礼拝では、主役はすべて聖職者によって占められ、一般の参加者は端役の位置も与えられず、舞台の下、つまり見ている他はありませんでした。聖職者た

ちは一般参加者を代表する形で、かれらには背を向けたまま一人神に向かい、礼拝を捧げました。もちろん賛美も、聖職者が訓練された美しい音色で歌いました。



しかしルターは、このことに変化を与えました。一部の特別な人だけが賛美をするのではなく、すべての人が神を誉め讃えることが出来るはず。その様な思いから、会衆賛美歌がそこに生まれたのです。もちろん訓練されていない会衆

はミサ曲のような立派な歌は歌えません。そこでルターは当時の民謡のような、人々が良く知っている曲を借りてきて、それに聖書の言葉、あるいは信仰告白、教理問答等々の言葉を付けて歌わせました。

そうなのです！賛美歌というのは、私の気持ちを歌い込んでいるものだと思います。じつは神の歌、神の言葉を歌っているのです。その意味で、これは一種の説教なのです。ルターはこのことを、「牧師は言葉で説教し、会衆は賛美歌で説教する」と言っています。これがドイツの宗教改革時代の賛美歌というものでした。

次に登場するカルヴァンも、同じ様な精神に基づき活躍した人でしたが、そのやり方はもっと極端でした。ルターは聖書に基づいて自由に作詞をしましたが、カルヴァンは聖書以外の言葉を使うことを認めませんでした。聖書に出てくる歌といえば詩篇しかありませんから、詩篇にメロディーを付けて歌わせました。これがジュネーブ詩篇歌と言われるものです。カルヴァンが生きている頃はまだ 50 曲ぐらいしかメロディーがついていなかったようですが、やがて 1562 年にはその仕事を受け継いだべザによって 150 篇全部に曲が付けられました。ですからカルヴァン派の賛美歌は、例えばオランダの改革派教会のように、讃美歌の一番は詩篇の一篇、二番は詩篇の二篇で 150 番が詩篇の 150 篇と、賛美歌番号が詩篇の番号と一致しています。つまり、賛美歌というのは聖書なのです。宗教改革者たちが心して創りあげた賛美に対するこの原点は、もう少し大事にされるべきだと思います。

さて、もう一つの問い、「現代人にもなじむ賛美歌はあるのでしょうか」、について考えてみた

と思います。その意味では、日本の既存の讃美歌もだいぶ進化してきたといえます。

例えば「讃美歌第二編」、「讃美歌第三編」にはギターコードの付いた曲や、フォークソングとしてなじみのある曲、黒人霊歌、等々と、青年達が歌っても楽しい曲がたくさんあります。さらに今は、「讃美歌 21」も使われだしていますし、ワーシップソング、そしてゴスペルといった曲層の楽譜も、容易に手に入る時代になっています。

ですから問題は新しい賛美の用い方、つまり現代人にもなじむ賛美のスタイルだと思うのです。もちろん賛美の場が主にチャペルであれば、そこに最もマッチした楽器はパイプオルガンです。その音色はいつまでも私たちの心を魅了し続けます。しかし、礼拝の場は必ずしも会堂だけとは限りません。家庭で、会議室で、また晴れた日は芝生の上かもしれません。そうするとどうでしょうか。どの賛美の歌もパイプオルガンで伴奏するのが一番であるかどうか。これは考えてみる価値があるのではないのでしょうか。ある曲にはピアノの方が良く合うかもしれませんし、またある場合にはギターが合うかもしれません。そしてこのことに関してはもっと素晴らしい発見が起こるかもしれません。それは、この様に曲のスタイルに巾が出てくると、もしかするともっと多くの人のタラントンがその礼拝に用いられることになるかもしれないということです。

詩編 150 編には次のようにあります。「……聖所で神を賛美せよ。大空の笈で神を賛美せよ。……角笛を吹いて神を賛美せよ。琴と豎琴を奏でて神を賛美せよ。太鼓に合わせて踊りながら神を賛美せよ。弦をかき鳴らし笛を吹いて神を賛美せよ。シンバルを鳴らし神を賛美せよ……」と。

## 目 次

「賛美とは」	森島牧人牧師	p.1
「喜びからの出発」	山本富二 師	p.3
「お粥と救い主イエス様」	白根義輝	p.5
明石怜晃(CS 生徒)から		p.6
「主はわが光」	高井幾世	p.7
「バプテスマ一年を迎えて」	石川万奈美	p.8
「主の恵みを数えながら」	西山律子	p.9
「中居 京先生」	島田正敏	p.10
「幼い頃の不思議な出来事」	根岸千恵子	p.10
「鈴木秀子シスターからの学び」	白井豊子	p.11
チャーチカフェ講座 11月11日のまとめ	羽入田悦子	p.12
「私の愛誦聖句・愛唱賛美歌」	梅谷興三、梅谷道子	p.14
「目を覚ませ！シロツ!!いつまで……」	犬塚志朗	p.15
「主イエスと共に生きる」	鈴木利子(神学生)	p.16
「主イエスの慰め」	召天者記念礼拝説教：森島 恵 牧師	p.18
その他		p.19～



### 金沢文庫キリスト教会 教会設立 45 周年記念礼拝

#### 「喜びからの出発」 山本富二 師

ルカによる福音書 19 章 5 節 6 節

イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」 ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。

#### はじめに



金沢文庫キリスト教会の皆様、教会設立 45 周年おめでとうございます。私は 60 年ぐらい前に白根新治先生のお宅で始められていました「祈りの家」の集まりに神学生として

参加したことがあります。金沢文庫キリスト教会は長い助走を経て教会になり、45 周年をお迎えになりました。

創立記念礼拝は、今までの多くのことを感謝すると共に新しい歩みの出発式です。

皆様とご一緒に「喜び」のうちに歩み出したいと願います。喜び無くしては何も始まりません。

今日はご一緒に喜びについて考えたいと思います。皆様にはどんな喜びがありますか。今日ご一緒にイエス様から教えられるのは「喜んだ」人についてです。彼はあまり良くない生活をしていましたが、イエスさまに出会い「喜び」全く新しい生活に進みました。

## 1 金持ちであった

聖書の時代に人々の生活は、今日考えられないくらい貧しかったのです。その時代に彼は「金持ち」でした。それは徴税人として税金を人々から不当に高く取り上げていたからです。

そして自分の懐を肥やしていました。ですから彼にはお金があったのです。お金はありましたが決して豊かではありませんでした。同胞からお金を巻き上げていましたから人々から嫌われ、罪人の仲間と言われていました。

## 2 悩む

誰にも悩みがあります。たとえお金が沢山あったとしても悩みはあります。表面的には何の問題も無いと見える人にも悩みはあります。彼は特に人々を踏みつけていたのですから人々から嫌われていました。声を掛けてくれる人もいませんでした。すると悩みはますます大きく深くなります。多くの場合悩みの中にある人は内にこもり誰にも話せないことが多いのです。そのような苦しさの中にいる人々は私達の周りに沢山います。

教会にいる私達は時々いろいろな方々から悩みを聞きます。それに応えたいといろいろ話し合いをします。またお訪ねもします。けれどもほんの一部の人のお話ししか聞けません。また解決に時間がかかることも多いのです。

## 3 見たい 見られている

彼は人々と交わりが出来ない生活でしたが、イエス様という人がいらっしやることが聞こえて来ました。彼はイエス様を「見たい」と願いました。どんな「存在」の人か知りたかったのです。彼の尋ねたかったことは、モーセが神様に「あなたはどなたですか」と尋ねた時に与えられた言葉と同じです（出エジプト 3・14）。彼は大切なことを求めています。

彼は人々に邪魔にされイエス様を見るのがなかなか出来ませんでしたので、「走って行って」先回りして木に登り、いちじく桑の大きな葉の間からイエス様を「見よう」としたのです。

するとイエス様の方から「ザアカイよ、急いで降りて来なさい」と呼び掛けてくださったのです。

まさに転倒が起きました。「見よう」としていましたが「見られて」いたのです。

私達は一人ひとり精一杯生活をしています。また私達の側からいろいろなことをしようとしています。しかし本当は神様であるイエス様の方から「見ていて」くださっているのです。またイエス様の方から働き掛けてくださっているのです。これは私達の人生のことです。私達は多くの課題の中で自分をまた自分の人生

を考えています。眠れない夜を過ごすことも多いのですが、自分で何とかしたいと願っています。その私達をイエス様は見ているとくださっていて、呼び掛けてくださっています。



## 4 喜ぶ

ザアカイはイエス様からの呼び掛けを知りました。自分自身を知ってくださっているイエス様を知ったのです。そして喜んだのです。人は自分自身を本当に知ってくださる人がいるこ

とを知ることには大変な喜びなのです。

ザアカイとはギリシャ語でザアクカイエと言います。ザアクとカイエの二つの字から成り立っています。ザアクとは「生きていること」また「カイエ」とは「喜ぶこと」です。するとザアカイとは「喜びの生活をしている人」となります。喜びの生活をしている人がザアカイなのです。

彼は救い主イエス様により、真に喜びの人に変えられました。いつも自分のことだけを考えていたこの人は、人々のことを考える人に変えられました。そして自分の財産を与えることを始めたのです。

## まとめ

喜びは与える思いになります。私達は救い主イエス様に導かれています。イエス様は「急いで救い主であるわたしのもとに来なさい」と呼び掛けてくださっています。私達は神様であるイエス様に導かれています。いろいろ考えさせられ苦しんでいる私達がイエス様からの導きを知るなら、そこに新たな喜びの働きが始まるのです。

教会設立45周年礼拝はこれからの働きであります46年の始まりの日です。出発の日です。これからの50周年、100周年に向かってイエス様の喜びを持って歩み始めてください。



## 「お粥と救い主イエス様」

白根義輝

「クリスマス」という言葉には、独特の響きがあります。クリスマスと聞くだけで、年末の喧騒の中にあっても、平安な心になるのは私だけではないと思います。

救い主イエス・キリストが誕生されたクリスマス、毎年訪れるクリスマスですが、何故心が平安で満たされるのでしょうか。

小学校4年生の時に、担任の真部先生から次のような話をお聞きしました。

登場人物は2名で、一人は御殿様です。もう一人は剣豪で、塚原ト伝だったか宮本武蔵だったかはっきり覚えていませんが、殿様に御馳走するとって自分の庵に招待しました。

殿様は囲炉裏の前に座り、茶を飲んで待ちました。いつも、贅を尽くした料理を食べている殿



様を招待したのですから、どんな珍味が食べられるかと期待して待ちました。しかし、待てど暮らせど、御馳走は出てきません。しびれを切らした殿様は、段々腹が立ってきました。やがて殿様は、お腹が鳴るほど空腹になり、怒る力も残っていませんでした。

そこへ、やおら米と水が入った鍋を手にした主が現れ、鍋を囲炉裏の自在鉤にかけたのです。暫くすると蓋を取り、塩を一つかみ放り込みました。出来上がった白粥を茶碗によそって殿様に差し出しました。殿様は散々待たされ空腹だったので、こんな美味しいものは食べたことがないと言って喜んだそう。



「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」マタイ 1:21

救い主イエス様が誕生されたのは、私自身が犯した罪から救うためと、はっきり示されています。

クリスマスに救い主の誕生として喜ぶためには、自分の罪に気づかなければ喜べないと思います。自分で自分の罪を赦すことができれば問題ありませんが、そうはいきません。

姦通の場で捕らえられた女性がイエス様のところに連れてこられた時、「あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まず、この女に

石を投げなさい。」とおっしゃいました。すると、年長者から始まって、一人また一人と立ち去り、最後には、イエス様と今まさに石で打ち殺されようとしていた女性が残りました。

自分の罪に思いを馳せる機会がないということ、他人の罪はよく見えるのに、自分の罪は見えにくいし、見ようもしないのだと思います。また、年長者から立ち去り始めたということは、生きていればいるほど罪を重ねやすいということでしょうか。

普段から必要な衣食住が与えられ、家族や友人に守られ満ち足りた生活をしていると、自分の罪の問題など別世界のことと考えるのでしよう。

お腹が鳴るほど徹底的に空腹にならなければ、一杯のお粥が御馳走にはなりません。殿様にとって本当に必要なもの、価値があるのは、一杯のお粥だったのです。

同じ様に、自分の罪を思い起こし、罪深さに気づいた時初めて、罪を赦してくださる救い主の必要性・価値に圧倒され、その出現を待ち望む者となるのでしよう。

救い主イエス様の御降誕を喜び、感謝するクリスマスを迎えたいとおもいます。



## 明石怜晃（あかし れおん）（CS 生徒）

初めて教会に来たのは、小学校一年生のときです。教会に来た理由は、学校で、日曜日には教会に行きなさい、という指示が出されたからです。

どうして教会に行くようになったかというと、小学1、2年生の時はおやつがもらえるからです。3年、4年、5年生のとき

も、おやつをもらえるために毎回行っていたので、自然に教会に行かなければいけないという意識をもってしまったからです。

中学生になったら、部活の影響で、教会に行けなくなると思う、というか疲れて行きたくなくなる可能性がある。

ぼくは、この教会に5年通っているのですが、なんでこんなに長年教会をやっているのに、メンバーが増えないか不思議です。



## 「主はわが光」 高井幾世

昨年の暮れに乳がんが見つかりうろたえる私を主は守り、多くの方に支えられ無事治療を受けることができました。そして今回、長年患ってきた緑内障のため失明するかもしれないという不安の中にある私を、主は専門の先生へと導いてくださり、手術をしていただけることになりました。教会の皆さんのお祈りに支えられ、3週間前に左目の手術を合併症もなく終えることができました。左目は視野がもう少ししかなく、術後も見えるようにはなりません、右目は左よりは視野が残っているので来月の手術で少しでも視力が保たれるようにと祈っております。自分勝手な思いばかりの私ですが、病めるときも苦難のときもともにいてくださる主に感謝します。

正常眼圧緑内障かもしれないと言われたのは今から20年余り前のことで、コンタクトレンズを買うため検査をしてもらったことでした。すぐに近くの眼科で大学病院を紹介してもらい受診したところ、特に左目の視神経に異常があるとのことで、目だけでなく頭のMRIなど色々な検査を受けました。

ですがはっきりしたことはわからず緑内障の疑いがあるので目薬をさすように言われ、その後10年あまり点眼薬での治療を大学病院に通いつつ続けてきました。眼圧は安定していたので大学病院から近くの眼科に戻され、薬での治療が続きしました。しかし、その間にも左目の視力は徐々に低下し、また今度は東京の大きな眼科を紹介してもらい、そこではっきり緑内障であると診断されました。しかし眼圧がそれほど高くないからか手術での治療の話はなく、強い目薬での治療がはじまりました。そしてまたその間にも視力の低下は左目だけでなく、右目も進みました。不安の中、知人から手術実績のあるという眼科を教えてくださいに行きましたが、最初は緑内障の手術ができるといわれたものの、途中で担当医師が変わり最後は詳しい診察もないまま白内障の手術だけを勧められて、どうすればいいかわからず悩みました。このままでは右目も左目と同じようになるのではないかと不安におののきつつ、祈りながらネットで緑内障の専門医を調べる中、今年の3月と7月、日経新聞に緑内障の記事が掲載され、東大病院の

先生のお話を読む機会を得ました。なんとかこの先生に診てもらえないかとあちこち聞いて回り、幸いにも鎌倉の緑内障専門の先生から紹介していただくことができました。いくつか新しい検査もしていただき、その先生は過去の病院の診療データも見ながら、私の緑内障は夜間に眼圧が上がり日中の診察時には下がるタイプである可能性が高く、そのためいままで見過ごされてきたのではと言われ、手術で少しでも進行を遅らせるようにしようとして治療方針を説明してくださいました。右目も中心視野が欠け始めているらしく、真ん中が欠けると視力の低下が早いといわれたので、今のタイミングで診ていただけて本当に感謝です。なかなか適正な治療にたどりつ

けず、身も心も闇の中をさまよっていた私を主は少しでも光ある方へと先導してくださいました。

今回も教会の牧師先生はじめ皆さんは弱い私のために祈り助けてくださり、家族や多くの人達に支えられていることを感謝します。年齢とともに外なる肉体の衰えは避けられずとも、今こうして与えられている命と主の大いなる恵みに感謝し、これからも主の光を慕い求めつつ歩んでいけますよう祈ります。

「主はわが光、わが救いなり」

(詩編 27・1)



## 「バプテスマ 1 年を迎えて」 石川万奈美

早いもので私がバプテスマを受けて 1 年が過ぎました。

今迄 私は常に「明日」のことを心配して生きてきました。歳がいったからは「明日は」から更に進んで「来週」「来月」「来年」の様に先々の不安を、まるで自分で生み出すかのごとく抱えました。とても苦しいことでした。そしてとても不安でした。

そうした中で教会に通い、お説教を聴き、聖書を読む中で私のその苦しみは、自分の沢山の欲の現れであり、それにあった生活を自分に置いていなければならない、「自分は」

「自分は」ということなのだ気付きました。

また、私は居場所のないような管理と監視された環境の中で育った為か、安らぐ自宅というものが無かった様に感じていました。そして両親が亡くなり「実家」という現実の箱も無くなり、結婚して幸せな居場所ができたのですが、なぜかもう一つ欠けている気がしていました。もちろん十分な程に円満に恵まれていたはずです。

聖書の中に

・私はあなたを独りにしない



- ・(あなたの家は) 父(神)がたくさん持っておられる
  - ・明日何を着よう、何を食べようなど、心配することはない
- という箇所を見つけた時には、「えっ! そうなの!？」と何度も読み返しました。

バプテスマを受け、自分の身体や頭についていた拘り、自分を守るためかのような自分の欲が流れていき、「もう神様、すべてお任せしました」と気持ちが楽になっていきました。感謝です。

イエス様の父なる神様の祝福を肌で感じ、一番感じたのは聖霊でした。

何を見たとかではなく、触れたとかでもなく、もちろんなぜ聖霊とわかるのかも正直わかりません。まだお祈りさえ、オドオドし、教会生活一年生の私には聖霊とは……と語

れるものもありません。然し乍ら語れずとも「ああ聖霊が私を一番良い様に導いて下さる」

そしてあふれるばかりの小踊りしてしまう程の幸福感に満たされます。今や教会は私の実家、天の国は更に本家ということでしょうか。卑屈に生きてきた私は、これからは皆に、そして隣人にこの幸福感を伝えるべきと思っています。

最後は、“ああ…神様、有難うございます”その言葉で私は残された人生を笑顔で過ごしていくつもりです。



## 「主の恵みを数えながら」 西山律子

主はこんな私をそのまま受け入れて、神の民、その牧場の群れとして下さいます。

天と地を造られた神、全能の神を「天のお父さま」と呼びかけ、お祈りできる幸いを感謝いたします。そして主の手にひかれて、この世の旅路を歩むことができるのです。

どんな時にも主がともにいて下さるように牧人牧師、恵牧師が励まし導いてくださいます。そして教会の方々と主にある家族のような、あたたかいお交わりがあります。なんと幸いなことでしょう。主が下さった、たくさん恵みを数えながら、神を賛美し喜びの日々を歩んでおります。今の思いを讃美歌 21-461 番で賛美したいと思います。

♪みめぐみゆたけき 主の手にひかれて、  
この世の旅路を あゆむぞうれしき。  
たえなるみめぐみ 日に日にうけつつ、  
みあとを行くこそ こよなき幸なれ。♪



## 「中居 京先生」

島田正敏

中居先生にお会いしたのは、私が大学1年生の時でした。私が入ったクラブの顧問をしていました。当時70歳ぐらいだと思います。中居先生は、小学生の時に鉄棒から落ちて視力が弱くなってしまいました。私がお会いした時は、ほとんど見えなかったと思います。聖書を読むときは、分厚いレンズの眼鏡をかけて聖書に目を数センチの距離に近づけて読んでいました。中居先生と親しい方々は、「中居先生は、新約聖書を暗記していると思う。」とおっしゃっていました。

中居先生は、岩手県遠野市に生まれ、日本バプテスト神学校を卒業しました。卒業式には来賓として内村鑑三が出席しています。その後、アメリカのロチェスター神学校に留学しました。帰国後は、関東学院教会牧師、関東学院大学神学部長、関東学院六浦幼稚園の初代園長、などを歴任されました。関東学院大学には、「青雲寮」という男子学生寮があり、寮長も兼任していました。戦後の貧しい時代、多くの学生が中居先生に借金をお願いしたようです。先生の手元には、段ボールに入った「借用書」が数箱あったといわれています。

中居先生のお父様は、遠野の豪商だったようですが、ある時、東京から来た宣教師に出会い、洗礼を受けたそうです。その影響で中居先生は、牧師を目指しました。中居先生は、神学校で学ぶために風呂敷を担いで遠野を出ました。やっとのことで東京に着いて風呂敷を開けてみると、お母様からの手紙とお金が入っていたそうです。その時は涙が出たそうです。

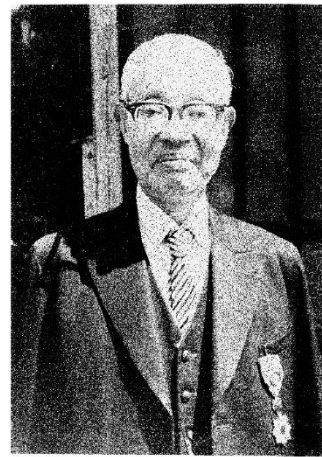
中居先生のお父様は、

「つねに祈りなさい。」「初志を貫きなさい。」

「お金に淡白でありなさい。」

と言っていたそうです。中居先生はその教えを実践されました。

中居先生は、101歳で天に召されました。



## 「幼いころの不思議な出来事」

根岸千恵子

私が5歳の頃、母に手を引かれて山隣町のメソジスト教会へ行っていました。

ある時、近道だと言って、線路を歩きました。母が先を歩き、私はその後をつけて歩きました。「お母さん、怖いよ、電車が来るよ」と言った

のを覚えています。その時私の後ろから男の人が来て、「奥さん、危ないです！もうすぐ電車が来ますよ」と言って私を抱き上げて線路を渡ってくれました。母がお礼を言おうと思いついたら誰も居なかったそうです。

時が経っても母は時々その事を話し、「あの人はイエス様だった。白い服だったよ」と言います。私は鉄道の保全の人だったと思っていました。

20歳の頃一度その場所へ行ってみました。細い一本の線路で、一時間に二本位の通過で、村の人も利用していたそうです。片方は崖で、反対側は竹藪でした。抱き上げてもらった感触は覚えていました。

最近、日々の暮らしの中で、時折理解できないことがあります。その後ふと新聞、テレビ等で解決することが多々あります。主人に話す

と「偶然だろう」と言って相手にしてくれませんが、今でも私は嬉しくてイエス様に感謝しています。



## 鈴木秀子シスターからの学び 白井豊子

下の息子を育てる上で、悩むことが多かった頃、私は鈴木秀子シスターの学びの会に参加したり、直接先生に相談にのっていただいたりしました。鈴木先生の言葉は心に響くものがあり、救われる思いになりました。そのことをふり返りながら記してみます。

…… 楽しい波動は相手に響くもの、  
あなたのために苦しんでいるとい  
う姿勢は、逆効果 ……

「あなたが明るくなるようにという願いで、私は何とかならないものかと苦しんで心配しているのです」というメッセージは、相手に一層負担を与え、負の方向にしか動かない。それよりもお母さん自身が楽しむことです。その楽しさの波動がお子さんにも伝わり、良い影響を与えるのです。このように鈴木先生から教わりました。

私が病院で病のある子の指導をする、院内学級の担任をしていた時の事です。小学校二年の女の子が、

「私はお母さんには苦しいことは言えない。なぜならお母さんは、うんと心配するから」と言っていたのを思い出します。お母さんが大らかに大丈夫よと受けとめてくれる時、安心して子どもは自分の苦しさをそのまま出せるのだということなのでしょう。

自分の心を解放して、事態を受けとめている時、他への心配りが可能になるという、カウンセリングで得た学びと共通していると思いました。

…… 自分を神にしてはいけない。  
あの時、こうすればこうならなかったと自分を裁くことは自分を神にしているのだ。……

下の息子を育てる上での自分の至らなさを責め、後悔ばかりすると鈴木先生に話したのです。その時先生は、

「自分を神にしてはいけません。後になって、あの時こうすればよかったと思うかもしれませんが、人はその時好いと思ったことをしているのですから」

と、語られました。それを聞いて私は「許されるのだ」という思いになり、心にじいんと響くものがありました。

「足跡」という詩で、神は最も苦しい時ほどあなたを背負って歩いていると語られています。すべてを神に託する生き方、言うは易く、行うは難しですが、私が背負ってあげると語られる神に、苦しみをゆだねて、自分を楽しませよう

と鈴木先生は教えてくださったのではないかと思います。

苦しんでいる時、鈴木先生からこのように学べたことは、苦しみを乗り越えていく力をいただき、後に人生を深く味わいながら進んでいくことにつながったと思うのです。感謝です。



## キリスト教入門講座

### 日本の信徒の「神学」 隅谷三喜男

(2020年11月11日 要約当番 羽入田悦子)

#### 第2部 <日本の信徒>の神学

##### I 問題提起に代えて

##### 1 信仰の受肉—今日のキリスト者の生き方

(「信徒の友」1981.4月号)

##### ◎日曜信者と皆勤信者

##### ①日曜信者

月一土曜日は日常的な世俗の世界に埋没。全力を世俗の仕事に注ぎ込む事で評判の良いクリスチャンとして存在する。

##### ②皆勤信者

自分の仕事に情熱を感じられないことから、多くの時間を使って教会に奉仕する。すべての集会に出席し、忠実な信徒として教会の中では高い評価を受けている。

キリスト者としてこの二つのうちどちらが良いのか、どちらにも問題があるのか考えたい。

##### ◎積極的に立ち向かう

日本の教会では復活節に比べてクリスマスの方が盛大に祝われるが、神の子キリストが生まれたというのはどういうことか。ヨハネ1:14に「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った」とあり、これがクリスマスのメッセージであるが、社会で通用する言葉としては「私たちの歴史の中に、人間生活の中に神が突入してこられた」ということになる。旧約では神と人間のかかわりは、神は神として天にあり人間は人間としてこの世にあって、両者は契約関係や預言者の言葉という

切れやすい関係で展開する。新約では私たちの歴史の中に、罪の現実の中に神の子が入り込んで来られたということである。

神がキリストにおいて、この歴史の中に入ってこられた、このキリストを受け入れるかどうかが私たちの信仰の一番基本的な点である。神がこの罪の現実の中に受肉され、十字架の上で死に給うたがゆえに、私たちの罪が贖われ救われたということを感じてこの信仰に立つなら私たちもまた、キリストにあって罪を赦されキリストによって清められた者として、キリストと共にこの罪の現実の中に入って行く。それが主イエスの言われる「わたしの十字架を負って、わたしに従ってきなさい」ということである。

教会では「受肉の信仰」という言葉を使うが、ここではそれをひっくり返して「信仰の受肉」とした。その意味するところは、神の右にいましたキリストが神の座を離れ、この歴史の中に入ってこられたということにならって私たちも現実の社会の中に入っていかなければならないということである。キリスト者のこの世における生き方は、基本的にこの世に対して積極的に立ち向かうことをキリストにおいて迫られている。歴史のただ中に、罪の現実の中に入り込まれたキリストの生き方を知る時、私たちもまたキリストにならう者としてこの世のただ中に入ってこの世に対して積極的に取り組む。それが十字架を負ってキリストに従うことであり、私たち自身の信仰が「受肉する」ということである。

マルティン・ルターは「キリスト者の自由」という有名な文章の中で、「キリスト者の自由は二重である。一つは、私たちはキリストの福音によってこの世から自由にされたこと。もう一つはこの世から自由にされたがゆえに私たちはこの世に仕える自由を与えられたこと。」として、私たちが積極的に神に赦された自由をもって、この現実の社会の中に入って仕える自由というものを強調している。赦された

私たちがキリストに従おうという時、それは罪の現実のただ中に信仰の自由をもって入っていくことを意味しているのである。

#### ◎キリストのくびき（軛）を負う

クリスチャンは泥にまみれたくなくて社会に対し一歩距離を置こうとするが、キリストが私たちに命じておられるのは「その泥にまみれてこの世に生きよ」である。そこにいろいろと問題があり、私たちは泥にまみれざるを得ない。そこで、神の前に立って自らの罪を悔い改める。そういう日々を生きていくことこそが私たちに与えられている神の恩寵である。その時にこそ「どうか私の罪を赦してください」という祈りが真実の祈りとなる。

私たちは社会にはめ込まれている一つの歯車であり、一つの歯車として動くしか道はないとよく言われる。そして日曜信者は漠然とこの考えを持っているように思われる。

しかし、社会の構造は複雑ではあるが、その中にもいろいろな関係の付け方、選択の余地は残されていて、社会においては、私たちの主体的な判断と選択の可能性が非常に広くあると言える。社会の仕組みの一つとしてだけ生きるか、主体性を持って生きるかによって人生は全く違って来る。主体的に生きる余裕の残されている社会の中に入って行く私たちにキリストは「わたしの十字架を負って・・・」と言われるが、この言葉は「わたしのくびきを負うて、わたしに従ってきなさい」と同じ意味で、一つのくびきによって繋がれた牛が共に重荷を負い合うように、私たちもまた歴史の中に入ってこられたキリストと共に、この現実の社会の中でキリストのくびきを負う者となる、これがキリスト者の生き方である。

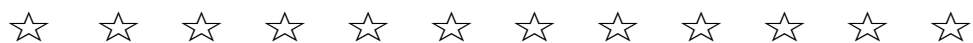
ヨハネ1：17に「律法はモーセをとおして与えられ、めぐみとまこととは、イエス・キリストをとおしてきたのである」とあるように、私たちがキリストのくびきを負うのは律法と



して与えられてのことではなく、キリストのくびきは恵みとまこととによってキリストにより与えられているということである。キリストがこの言葉に続けて「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と言われているが、これが私たちキリスト者に与えられた恵みである。この恵みにこたえて、キリストのくびきを共に負って、歴史のただ中を生きていくということが、まさに世にあるキリスト者の生きるべき道ではないか。

それがキリストによって祝福され、キリストの恵みの中にある生活として、私たちに許さ

れているところの恩寵であるということを感じて、私たちの人生の道を歩んでいこうではないか。



### 愛誦聖句と愛唱賛美歌

梅谷興三

#### 聖句

「求めなさい、そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなた方のだれが、パンを欲しが  
る自分の子供に、石を与えるだろうか。」

マタイ7:7~9

#### 賛美歌

讃美歌 21-575

球根の中には 花が秘められ、  
さなぎの中から いのちはばたく  
寒い冬の中 春はめざめる。  
その日、その時を ただ神が知る。

.....



梅谷道子

#### 聖句

「われは道なり、真なり」ヨハネ 14:6  
祖父がこの聖句の部分からわたしの名前を名付けてくれたから。

#### 賛美歌

旧賛美歌「あめなる我が家を仰ぎ見れば」家庭  
礼拝でいつも歌ったのと三歳で亡くなった弟  
が、母親にせがみ、オルガンを弾いてもらって  
可愛い声で歌っていた思い出があるので。

讃美歌 21

貴きイエスよ 57番、「花彩る春を」385番

「信じて仰ぎみる」111番

「おじいちゃん」「じいちゃん」と孫や、全く見知らぬ人がすれ違うその時「お気をつけて!!」、とか「お手伝いしましょうか?」と声をかけられたり、ニッコリ微笑みで労(いたわ)りの挨拶を受けたりする心温まる日々を過ごしてきました。

こんな時、突然コロナ禍が、しかも2波・3波も襲来の兆し。世界を揺さぶり始めています。その影響もあってか米国では大統領選挙で二つに分断? トランプが譲らずと…。私も閉塞感に苛まれたり、いや好転のチャンスかも、と思ったりで月日を悶々と過ごしています。ピンチをチャンスに、転禍為福、寒門出貴士(社会的地位が低く裕福でない家の子どもは逆境に強く出世をする)、失敗は成功の…。

.....

定年退職後、10年近くこの世で天国に居住する夢のような生活をしてきました。近隣では高価すぎ(=ピンチ)で、購入できないので、自宅から160kmほど離れた県外の、森林に囲まれた所、インフラ設備の整った山小屋と耕地を求めました。鍬とスコップで、自力で竹藪を開墾・畑づくり、そして食べきれないほどの野菜(根菜類、豆類、芋類)、果物(トマト、スイカ、イチゴ、トウモロコシ、そら豆など)、の栽培、そして豊かな収穫、おまけに敷地内に大きな栗の木が覆いかぶさるように生えていて、秋には毬栗付きの自然の恵みを味わう(=チャンス)生活をしました。交通費は片道たったの350円、燃費65km以上/lの小型

二輪スーパーカブ110(マニュアル普通乗用車の免許を所持しながらこの50年来ペーパーライダー、原付二輪では交通の流れに乗れない、=ピンチ、やむを得ず小型二輪の免許を新たに取得、その後ぐ〜んと快



適、公共の乗り物は片道3,500円必要)を使用しています。日中は二輪で走る道中で、四季を彩る自然の美を全身で満喫、田舎に近づけばベートーヴェンの交響曲: 田園が聞こえてきそうです。また真夏は暑さを避けて夜走ります。煌めく星空とそれに呼応してそよぐ風、サラサラと樹木の囁き……、(宗教哲学者マルティン・ブーバー並に)天空と地上との交流・対話を感じながら走ります。田舎の丘を上り下りすると突然湖



水に反射する満月、上空に名月が眼に飛び込んできて(=大チャンス)、なぜかその名月はしばらく私に付き添っている、ピアノソナタ「月光」が聞こえてきそうな、等々。危険な道中なので神様との対話・祈りを欠かすことはできません。疲れたり、お腹がすいたりしたら途中、途中にあるコンビニ(なぜか田舎は食事用の小室付き、おまけに24時間営業、がら空き=チャンス)と、楽しい思い出話に切りがありません。

「若者は幻を、老人は夢を見る」(ヨエル3:1、使徒言行録2:17)」だから私は、このような夢の世界に浸りながら余生を、といきたいのです……。

というわけにはいきません。

「天命を終える前にしなければならぬことがあるだろ!!」と、教会のキリスト教入門講座「日本の信徒の『神学』」の著者: 隅谷三喜男氏から最近叱られています。

そこで私は、まずは家族が困らないように身辺整理・終活、遺言の作成。そして大事なこと: 隅谷氏の言う通り神様に感謝とお願いするだけでなく、今までの怠惰な生活を懺悔。これか

らは神様から授かった才能の活かし方を祈り求めながら真心こめて過ごすこと。その後、心

静かに天寿を全うすることができますように、と願い祈りながら…。在主

2020年7月19日 「主イエスと共に生きる」 フィリピの信徒への手紙 3章 5～9節

鈴木 利子 神学生

わたしは、愛知県半田市の田舎で育ちました。両親ともノンクリスチャンであり、子どもの頃教会学校でキリスト教に出会いました。その町の学校を卒業し、特別な教育は受けていませんし、何の経歴を持っていません。

この手紙にはパウロの経歴が自分の手によって書かれています。ユダヤの人々には悲しい歴史があります。バビロン捕囚によりイスラエルを追われた多くの人々を祖先に持ち、その地においてユダヤ人の誇りを忘れずに、自分たちの生活を立てていた人がいました。パウロもその一人であり、生まれて8日目に割礼を受けたと書かれています。「割礼」とはユダヤの人々が、神との約束の印で、神の民であり選ばれた民族であることを言い表すことです。パウロは自分がユダヤ人であることに誇りを持ち、パリサイ的な教育を学び、他の人と比べられないほど、律法に忠実に生きていました。律法を守ることが「神」に対しての正しさを表していると考え、イエス・キリストを信じる人々を迫害していました。そのパウロが、イエス・キリストによって回心に導かれた。使徒言行録に記されています。突然の光によって倒され目が見えなくされた。パウロは初めて他の人に助けられることになったのです。それまで自分で考え行動し、自分が正しいと思って生きてきた彼が初めて人を信じる事が出来た。人を信じなければ、一歩も前に進むことができない。パウロにとっ

てどんなに恐怖だったのでしょうか。人間は一人では何もできない事を、身を以て知らされたのです。そして主イエスの弟子によって、目が見えるようにされたのです。この時にパウロの心に変化が起きたと思います。主イエスに話しかけられ、今までのパウロの心のドアが開けられ、主を信じる心が与えられた。

パウロはこの経験を通して主イエスを信じて生きることが、今まで自分が持っていたすべてのもの、プライド、経歴などを捨て去っても自分の心に今までにない喜び、心の平安が与えられたのでしょうか。主から声を掛けられるとは、自分の心を変えようとする素晴らしい出来事、人間にはできない事です。パウロは律法を守ることが神への義(正しさ)を求める事ではなく、イエス・キリストを信じる事で得られる義(正しさ)のあることを知り、それを人々に伝えていったのです。主がパウロに与えた愛はどこからのものでしょう。主が向かった十字架はパウロだけでなく、私たちにも与えられた究極の愛、無償の愛です。何ものにも代えることのできない愛です。私たちはパウロの様な劇的な出来事は無くても、パプテスマを受けようとする事は、主によって心を変えられ



た出来事に思います。パウロがフィリピの人々に送った手紙も主イエスを信じて生きる事の大切さを書いています。主からの愛が与えられ

ている私たちです。信じて、祈り、感謝することは私たちにもできます。主と共に歩きましょう。

## 「ただ一つの慰め」

ローマの信徒への手紙 14章 7-9節

森島 恵 牧師

プロテスタントの教会では毎年この 11 月の第一主日を永眠者あるいは召天者を記念する日として、地上の歩みを終え、神様の御許に帰られた信仰の先達に思いを致しながら礼拝を捧げています。

さて、この私たちの教会の歴史は 63 年前に創立者である白根新治先生のご自宅で「祈りの家」として始まりました。最初の出席者は 5 名だったと記されていますが、そこに聖霊を通しての神様の働きかけがあって伝道はスタートしたのです。この時の熱い信仰を私たちは継承しているということになります。今日初めて教会に来られた方もおられるようですが、それがご自分の意志ではなく神様の働きかけによるものであったとすると大きな意味を持つことになります。真の神様は目には見えませんが、この教会の始まりのように私たちの地上の時は、聖霊を通して導かれるのです。そして私たちの一切の必要を満たし痛みを回復させてくださるのです。この神様の働きかけによってすべてに最善がなされると信じて一切を委ねる時、そこに「思い煩う私」というものは存在しません。過去の失敗もすべて「良し」とされて今ここに生かされている、そこにあるのは感謝のみです。このような日々を歩まれた信仰の先達によって教会は今日あるを得ているのです。

「祈りの家」として始まったこの教会ですが、先日教会創立 45 周年を迎えました。創立者を始め多くの先達の祈り、働き、献金、そしてインマヌエルの神様の支えと導きによってこの地に教会が誕生しました。そしてその会堂の老朽化に伴うこの新会堂の建築に際しても多くの方々のお祈りと尊い献金、そして変わる事のない神様の支えとお導きがありました。今も生きて働いてくださる神様はいつも私たちに一番大切なものを与え、示し、道を開いてくださるのです。「あなたが何者であっても、決して見捨てることはない」との聖書の中の御言葉は、神様の私たちへの深い愛を示唆していて、私たちを奮い立たせます。私たちが生きるのも死ぬのも、その時は神様の手の中にあります。パウロは「・・・生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。」(ロマ書 14:7-9)と書き記しています。生きている人のためだけではなく、死んだ人の主でもいてくださる主は神様を信じて生きた兄弟姉妹の一切を主イエス・キリストを通して憶えていてくださるのです。神様を知らずに世を去った家族のことを思います。しかし、神様はすべてご存知です。この神様の愛から私たちを引き離すものは何



もないとの確信をパウロは告白しています。  
「わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、私たちを引き離すことはできないのです。」(同 8:38-39)。宗教改革者マルティン・ルターは厳しい状況の中で囁く悪魔に対し「私はバプテスマを受けている」と何度も叫んだと言われています。それは「私はキリストと結ばれている」ということです。十字架の死により、永遠の命に導いてくださった主イエス・キリストに繋がる者として、私たちは互いに神様の祝福を祈り合いながら「シャローム！」と喜んで生きていきましょう。

「イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがた

の内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてください。」(ロマ書 8:11)

(説教要約 羽入田悦子)

\*\*\*感想\*\*\*

- ・初めて教会に来られた方への配慮がなされた説教でした。失敗の多い過去も良しとされて、今ここに生かされている……目頭が熱くなりました。(E)



毎週主日礼拝は礼拝堂正面にパワーポイントの時節に合わせた画像が映し出され、その下方には生花が飾られています。そして前奏を聞きながら、み言葉に聞く準備をします。





宗教改革記念礼拝 10月25日

☆トーンチャイムコワイヤー、  
エルピス（ゴスペルバンド）健在



☆こども祝福式礼拝 11月15日



☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

主日礼拝・Church Café 講座の御案内

- |           |                 |                          |
|-----------|-----------------|--------------------------|
| 主日礼拝      | 日曜日 10:30~12:00 | (教会学校 9:00~10:30)        |
| キリスト教入門講座 | 水曜日 10:30~12:00 | テキスト：「日本の信徒の「神学」」 隅谷三喜男著 |
| 賛美歌を歌おう会  | 木曜日 10:30~12:00 | 健康体操、発声練習、賛美歌練習、祈祷会      |
| 聖書研究会     | 土曜日 13:00~15:00 |                          |



### 金沢文庫キリスト教会 クリスマス礼拝の御案内

- ・クリスマス礼拝：12月20日（日）10：30～12：00
  - ・教会学校クリスマス礼拝は合同で行います
  - ・クリスマスイブ燭火礼拝：12月24日（木）15：00～16：30
  - ・横浜市金沢区 バプテスト同盟三教会合同キャロリング：  
12月20日(日) 詳細は教会のホームページをご覧ください
- \* (京浜急行) 追浜駅前 金沢八景駅前 金沢文庫駅西口

#### You Tube で礼拝を受信する方法

\* 金沢文庫キリスト教会は、礼拝を YouTube Live で配信しております  
以下の教会ホームページから見る事が出来ます

<http://kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp/WORSHIP.html>

\* あかしびと 102号のカラー版  
教会ホームページ機関誌選択でご覧になれます



#### 編集後記（広報委員会：記 犬塚志朗）

新型コロナ禍が再び猛威を振るおうとしています。その中、神様のご加護を信頼し、私たちに一人ひとりに与えられた使命を果たすことができますように祈ります。

クリスマス、新年を迎えるにあたり、皆様に豊かな祝福がありますようお祈りしています。